

2021年度 甲賀地域ぶどう栽培研究会暦(巨峰4倍体)

令和3年2月末時点

月	旬	生育ステージ	管理作業	かん水	内容					
3	上・中	休眠期	基肥施肥		・右図を参考に施肥。	主枝延長	1本あたりの施肥量(g)		参考 10aあたり基肥窒素量	
		樹液流動開始	かん水はじめ 主枝のぶら下げ	・水分不足は発芽遅延や発芽不揃いを招く。 ・土が乾燥しないように保つ。 ・晴天日の午前中に灌水する。	エコレット048		硫酸マグネシウム	2.4kg 4.8kg 6kg		
4	上・中	萌芽～展葉	「カイガラムシ類、ハダニ類、越冬病害虫」		・定植3年目以降は、主枝の先端を下げることで、均等な発芽が期待できる。	石灰硫黄合剤(7倍、萌芽前)※展着剤加用 ※粗皮削りを行ってから散布すると効果が高い。ボルドー液との混用はしない。				
			ビニール被覆開始		・萌芽前に被覆を行う。	・不定芽、副芽をかきとる。				
5	中	新梢伸長・展葉	【展葉5～6枚】芽かき		・誘引は、ねん枝を行いながらする。 ・1新梢あたり1房にする。弱い新梢は空枝にする。 ・収穫後まで巻きツルは除去する。	主枝片側の目安 1mあたりの新梢数 新梢間隔 5本 20cm				
			【展葉7枚前後～】ねん枝・誘引摘房①巻きツル除去		・ジマンダイセンフロアブル(800倍、開花前)					
	【展葉9～10枚】「べと病、黒とう病、晩腐病」	・土が常に湿り気のある状態を保つ。 ・極端な乾燥は、花ぶるいを助長する。 ・開花10日前には特に水分が必要。 【pF2.2程度】	・開花はじめに、花穂の先端4cm程度に整形する。 ・90cm以上の強い新梢は先端の未展葉部分を摘んで勢力を抑える。 ・副梢は2葉を残して摘心する。	アグレスト(1,000倍、開花14日前から開花期、花房散布または浸漬)						
	【開花はじめ】花穂整形結果枝摘心・副梢摘心 無核率向上処理		・フルメット5ppm 加用 ジベレリン25ppm ・晴天で風の強い時は処理を見合わせ、処理予定日前から園内に散水して湿度を保つ。 ・房の状況で複数回に分けて処理を行う。 ・ジベ焼け防止のため花冠取り器で花冠を十分落とす。	フルピカフロアブル(2,000倍、開花期～幼果期) スタークル顆粒水溶剤(2,000倍、前日)						
6	上	満開	【満開～3日後】1回目ジベレリン処理(フルメット加用)		・穂軸長を調整する。 ・内向き果粒と著しい小粒を取り除く。					
		開花後	「灰色かび病、うどんこ病」 「チャノキイロアザミウマ、コナカイガラムシ類」		・目標房数の1.3倍まで摘房をすませる。着粒の確認後、2回目ジベレリン処理までに行う。					
		結実期	【ジベ処理4～5日後】果房整形予備摘粒		・ジベレリン25ppm ・ジベ焼け防止のため、処理後液をよく弾き落とす。					
	中	幼果期	摘房②	【満開10～15日後】2回目ジベレリン処理	・生育期間中で最も水が必要な時期。 ・土が常に水分で満たされている状態を保つ。 ・果粒肥大促進のため十分な灌水を行う。 【pF1.5程度】	・ストロビードライフフロアブル(3,000倍、14日前) ・サムコルフロアブル10(5,000倍、前日) ※果粒アスキ大期まで				
			【2回目ジベ処理後】仕上げ摘粒摘房③		・2回目ジベレリン処理後直ちに開始し、果粒がダイズ大になった頃までに仕上げる。 ・目標房数に仕上げる。	主枝延長 1本あたりの施肥量(g) 参考 10aあたり窒素量 琥珀 4m 140g 0.78kg 8m 280g 1.57kg 10m 350g 1.96kg				
			【満開15日前後】追肥		・追肥は基部葉の脱色が起きない程度に抑える。					
下		「うどんこ病、灰色かび病」		・インダーフロアブル(8,000倍、30日前) ※袋かけ前の最終防除。	【満開30日後】摘心は控える【果粒軟化期】					
7	上	果粒軟化期	袋かけ・ビニール被覆除去		・糖度上昇のため果粒軟化期に袋かけを行う。 ・袋かけが済み次第ビニールを除去する。					
		着色期	「べと病」	・土が常に湿り気のある状態を保つ。	・ランマンフロアブル(2,000倍、14日前) ※果粒の汚れを防止するために袋かけ後に散布する。					
8	収穫直後	収穫期	収穫	・土壌水分の急激な上下は裂果を招く。 ・過度な乾燥は、糖度上昇や着色に悪影響。 【pF2.2程度】	・糖度確認 ・赤系ブドウはカラーチャート値確認					
		貯蔵養分蓄積期	礼肥		・園芸用肥料「琥珀」を主枝延長に応じて施用する。	主枝延長 1本あたりの施肥量(g) 参考 10aあたり窒素量 琥珀 4m 140g 0.78kg 8m 280g 1.57kg 10m 350g 1.96kg				
9					・ムッシュボルドードライフフロアブル(500倍) ・スミチオン水和剤40(1,000倍、21日前) ※混用は散布直前に行う ※高温多湿期の散布は薬害を生じる恐れがあるのでクレフリンを加える。					
10										
11	下	落葉期	落葉処理		・落葉は集めて園外に持ち出し処分する。					
12		休眠期	せん定越冬病害虫防除		・切り落とした枝の中にはトラカミキリ・スカシバの幼虫が入っていることがあるので処分する。 ・主幹や主枝、結果母枝にトラカミキリ・スカシバが食入していないか点検する。 ・粗皮削りを行い越冬病害虫対策を行う。					
			土づくり		・堆肥と土づくり資材の施用を右表を参考に進行。	主枝延長 1本あたりの施肥量(g) FTE リンスター30 苦土消石灰 4m 300g 800g 40g 8m 600g 1,600g 80g 10m 750g 2,000g 100g				

※農薬使用の際には、ラベルに従って下さい。

※薬剤抵抗性害虫の発生を避けるため、同じ薬剤を続けて散布しないようにしましょう。